

ROSSI 四季報

RiTS

2001年3月

第 12 号

Research Organization of Social Sciences (立命館大学BKC社系研究機構)

CONTENTS

〈巻頭言〉

私論・現代学生気質と研究所・大学院の役割	中村 雅秀 ……1
自動化・自動化から？次は？	雀部 晶 ……2
国際課税と経済学の課題 ：プロジェクト研究会の成果	中村 雅秀 ……3
中心市街地活性化を目指したJR草津駅東口 地区再開発構想に関する計画論的検討	春名 攻 ……4
ヒトの重量物持ち上げに関するメカニズム	伊坂 忠夫 ……5
生命保険契約の 予定利率引下げの既契約適及	古瀬 政敏 ……6

会計革命と企業分析	奥村 陽一 ……7
中国の不況と日本の長期不況： 超過供給説 versus 有効需要不足説	小野 進 ……8
経済は特許という「藪」の中へ	大川 隆夫 ……9
知識・情報の理論とパラダイム転換 —その哲学的世界像	鈴木 登 ……10
雑感—スペイン調査—	徳田 昭雄 ……11
国際シンポジウム： 「確率過程論と数理ファイナンス」の報告	赤堀 次郎 ……12

巻頭言

立命館大学 社会システム研究所
所長 中村 雅秀

私論・現代学生気質と研究所・大学院の役割

滋賀県中小企業中央会から依頼を受け、機関誌「中小企業しが」新年号に、現代青年気質に関する一文を寄せた。日頃、大学で感じていること、語っていることをそのまま論じた。一言でいえば、一方で毎年のごとく学生の「幼児化」に驚きながら、他方で彼ら・彼女らの技術的能力の高さにも驚かされる。挨拶もできず、新聞が読めず、哲学書など触れたこともなく、自己主張をもたず、まるで大人になるのを拒否しているかに見える彼らが、コンピュータを操り、外国語を駆使し、楽器を楽しみ、資格試験に挑戦するとなると俄然我々の世代にはまったく真似のできない高度な技術的能力を発揮する。

こうした現代青年に欠けている最大の資質は「抽象的思考能力」である。技術的能力の高度化とともに、問題を発見し、法則的に認識し、論理を構成し、解答を創り出す抽象能力の養成が、戦後のシステムが様々な分野で限界に達し、矛盾を露呈しはじめている今、社会的にも切実に求められている。本来、大学教育はそうした役割を担うべき存在であった。

少人数教育を土台に、大学における基礎教育を重視してきた成果の上に立って、本学が今求められているものは、現代学生の世代的特質、初等中等教育の現実、社会の変化を明確に意識した新しい教育システムの構築である。努力する学生としない学生が同じように卒業できる従来型大学はその使命を終わろうとしている。明確な差別化政策こそが必要とされている。

大学に学ぶことがもつ一般的意義とは別に、それが本当に人生の力になったと言われるのは卒業生の3割前後だとよく言われる。しかも、文系にあっても大学院レベルで学習に励んだ学生は明らかにそうした力を修得する確率が高くなっており、私の経験では、就職活動においても明らかに優位を示してきた。むしろ大学教育が大学教育だけで成り立っているわけではないが、少なくともこの2～3割の学生が大学院へ進学する環境の整備と政策的誘導が必要である。「卒業させるための教育」とは手を切るべきである。学部教育から教学を語るのではなく、彼らの能力を信頼し、大学院教育に焦点を合わせ、その充実と高度化のためにより大胆に教育システム全体を改変することが必要とされている。大学院を含めた「6年一貫（あるいは飛び級による5年一貫）」を教学の基本に据えた改革が必要に思われる。新入生全員に入学時に、大学院への進学を推奨し、大半の学生に「できれば大学院へ進学したい」と思わせる競争的施策が必要だ。

研究所を中心とした研究活動、研究補助活動への大学院生の参加は、こうした教学改革のもっとも重要な焦点であり、研究活動の社会的連携の拡大・充実とともにその戦略的中心課題となっていることが理解されなければならない。

(経営学部教授)